

2025年度「ふれあい看護体験」実績報告（アンケート集計結果）

1. 実施状況

- ・参加学校数（高校）：13校
- ・受け入れ施設数：22施設（病院：17施設、訪問看護ステーション：2施設、保健所：3施設）
- ・実施期間：2025年6月3日（火）～6月20日（金）

2. 参加学生 大分市内の高校に通う高校3年生 182人

3. アンケート回収数 181

4. 参加したきっかけ（回答1つ）

①自分の意志	119
②学校の先生に勧められて	47
③親や親せきに勧められて	0
④友人・知人の進められて	15
⑤その他	0
計(人)	181

*65.7%の学生が自分の意志で参加していました。

5. 参加した動機について（回答1つ）

①看護職になりたいので	116
②看護職以外の医療従事者になりたいので	18
③看護職の仕事を知りたい	25
④看護職以外の医療従事者の仕事を知りたい	0
⑤保健・医療・福祉に関心がある	19
⑥病院の中を見たい	3
⑦その他	0
計(人)	181

*64.1%の学生が看護職を目指して参加していました。

5. 体験した内容

【病院】

- ・見学：病院内、ドクターヘリ、ドクターカー、救急車、リハビリ場面、カンファレンス場面
妊婦健診・保健指導
- ・医療行為の見学：採血、血糖測定、吸引、経管栄養、注射、帝王切開、救急搬送患者の初療場面
- ・日常生活の援助・見学：清拭、洗髪、手浴・足浴、沐浴、ベッドメイキング、配膳・下膳
車いす・ストレッチャー移送、食事介助や入浴介助場面の見学、授乳見学
- ・医療用具の使用体験：血圧・脈拍測定、呼吸音・心音・シャント音の聴診、心電図モニター装着
個人防護具・手術着の着脱、シミュレーターを使用しての採血・ルート確保
BLS/AED体験、点滴準備
- ・病院食・嚥下食の試食 ・妊婦体験、赤ちゃん抱っこ
- ・余暇活動への参加：話をする、散歩・レクリエーション参加 など
- ・看護師との交流：看護職を目指した理由、やりがい、進路について、体験談など

【訪問看護ステーション】

- ・訪問同行（利用者宅、施設）
- ・医療行為（インスリン管理、褥瘡処置、人工呼吸器）の見学
- ・施設利用者と余暇活動参加
- ・高齢者体験
- ・看護師との交流

【保健所】

- ・健康診査（1歳6ヶ月児、3歳児）の見学
- ・子どもルーム見学、母子とのふれあい
- ・母子手帳交付と赤ちゃん訪問の説明
- ・はじめての歯磨き教室の見学
- ・健康チェック測定の実験
- ・乳がんモデルセルフチェック体験
- ・保健所、保健師業務等の説明
- ・保健師との交流：保健師を目指した理由、やりがい、進路について、体験談など

6. 体験を終えて看護職の仕事はどう思ったか（複数回答可） (人) (回答数/回収数)

①やりがいがある	171	93.9%
②忙しい	82	45.3%
③重労働	20	11.0%
④大変な仕事だと思う	60	33.1%
⑤素晴らしい	81	44.8%
⑥その他	4	2.2%

「④大変な仕事だと思う」：どんなところが大変な仕事と思う？

- ・複数の患者さんを正確に観察しまとめるところ（複数）
- ・人の命に関わる責任（複数）
- ・常に動き回っている（複数）
- ・多くのことを覚えられないといけない（複数）
- ・勤務時間が長く業務量が多い
- ・夜勤や呼び出し
- ・ナースコールが多く、いろいろな音が溢れている
- ・いつ何が起きるかわからないところ
- ・年上の方との関わり方、コミュニケーション
- ・仕事が増えるのに柔軟に対応しなければいけない

「⑤素晴らしい」：どんなところが素晴らしいと思う？

- ・多くの患者さんの支えになっている（複数）
- ・忙しくても笑顔で対応している（複数）
- ・何を優先すべきか、すぐに判断していた（複数）
- ・病気の治りを近くで見ることができる
- ・ケアをしつつコミュニケーションをとって患者さんを安心させているところ（複数）
- ・会話を通し患者さんの容態を理解している
- ・緊急時にすぐに対応していた
- ・命を救うためにチームで働いている
- ・地域の人の健康予防につながる仕事をしている

「⑥その他」

- ・処置後の患者さんの表情が明るくなった気がした。そんな表情を見ることができていいなと思った
- ・生きたい思いをサポートできる仕事と思った
- ・やりがいを持って仕事をしている
- ・コミュニケーションで仕事を円滑にしている

7. 体験を終えて看護職・医療従事者になりたいと思ったか

①なりたい	165
②なりたくない	0
③まだわからない	16
計（人）	181

*91.2%の学生が「看護職になりたい」と回答していました。

8. 印象に残っていること（抜粋）

【病院】

- ・患者さんに「ありがとう」と言ってもらえた（複数）「笑顔がいいです」と言われ嬉しかった。
- ・コミュニケーションの大切さがわかった（複数）

- ・カンファレンスに参加したことが印象的。一人の患者についていろいろな人が話し合っているのがかっこよかった（複数）
- ・患者さんに対する想いが伝わってきて、看護職についてもっと知りたいと思った。
- ・「管がどんどん取れていく受け持ち患者を看てやりがいを感じる」と言う看護師さんを見て確かにと思ったし、あらためて看護職に就きたいと思った。
- ・医療の知識はもちろん必要と分かったが、患者の気持ちに寄り添い不安にさせない適切なコミュニケーションも重要と思った。
- ・実際の看護の現場を体験できたこと（複数）。調べるだけでは分からないことを知ることができた
- ・このような機会でないとなかなかできない経験がたくさんあり、実際見たり聞いたりできたことでより看護師という職業に興味がわいたし、なりたいという思いが強くなった（複数）。このような機会を設けていただき、ありがとうございました。
- ・退院する患者さんの見送りをして幸せな気持ちになった。
- ・ナースコール対応に同行したことが良い体験になった。
- ・想像以上に動いて大変な場面ばかりだったが、どの看護師さんも笑顔できばきと仕事をしている姿が一番印象的だった。忙しそうだが、やりがいのある仕事と思った（複数）。
- ・よく問題として取り上げられる人手不足を感じ、とても大変そうだけど、誰ひとりとして嫌な顔をせずに患者さん一人ひとりに向き合って献身的に対応していることに尊敬した。
- ・必要なだけでなく、快適に過ごせるように声かけやお世話をされていて、とても凄いと思った。細やかな配慮をしていた。
- ・チーム医療を大切にしていること。多職種連携がいかに大切かがわかった。様々な職種の仕事を見ることができた貴重な体験になった（複数）。
- ・「患者さんを“何かができない人”にとらえるのではなく、一人の人として見るのが大切」と言っていた。患者さんの QOL 向上を第一に考えることの大切さを知った。
- ・ドクターヘリに乗れたこと、フライトナースの話を聞くことができて良かった。
- ・出産の場に立ち会えたこと。貴重な体験だった（複数）

【訪問看護ステーション】

- ・実際に利用者さんの家に行くことで、普段の看護師さんの仕事内容や様子を知ることができて、今後の自分の進路決定に役立った。
- ・高齢者の方と話をして笑ってくれたこと。緊張していたが、笑ってくれてほっとしたし嬉しかった。
- ・一人ひとりと寄り添っていて凄かった。
- ・看護師が老人施設や保育園、家にまで行って看護しているのに驚いた。
- ・近くで訪問看護の様子を見ることができたのは、とてもいい経験になりました。今までパツとしなかった「訪問看護」について知ることができて良かったです。もちろん大変な仕事だと感じましたが、それ以上に素敵な仕事だなとも感じることができました。
- ・利用者さんの暮らしがより良くなるように寄り添っていることにとても感動しました。事務所で利用者さんの体調が良かったなどの報告に皆さんで「よかった」と言っているのがとても印象に残りました。

【保健所】

- ・健診を見学した時に、保健師だけでなく色々な職種の人が関わっているのを初めて知った。1 歳から 3 歳でとても成長していて、その成長の様子を見ることができて良かった。
- ・健診では実際にお母さんたちとのやり取りを見ることができ、工夫や配慮などがたくさんあり魅力

的な仕事と思った。自分より年上の人や経験したことがないことに対しても助言しなければいけないことが、看護師よりも大変な部分だと分かった。

- ・自分のなりたい保健師の働いている様子を見学できた。目指している職業の進路相談やアドバイスもいただいたので、このことも参考に今後の進路選択に役立てたい。
- ・保健師の方と関わる機会はまだ無いので、すごく貴重な体験ができて良かった。保健師の仕事を詳しく知ることができた。

9. 受け入れ施設側の感想・意見（抜粋）

- ・学生とともに看護ケアを行うことで、初心にかえることができた。今年度、病院見学に来た看護学生が当院のふれあい看護体験に参加していたという話を聞き、ふれあい看護体験の意義を強く感じた。
- ・看護師は大変な仕事だがやりがいがあり、自身も看護師になりたいと思っていたことを振り返ることができた。
- ・学生の感想を職員に伝えると、「この仕事を分かってもらえて嬉しい」「ぜひ来年も受けたい」との意見があった。
- ・看護師や医療職に関心を持ち、自分の意志で参加されていた。短時間の間にとても大切なことに気づき学びを得ていると感心した。今回の体験を通して看護師を目指すことに拍車がかかり現場に戻ってくることを期待する。
- ・「また体験に来たい」「時間が足りない」など、嬉しい声を頂いたので、今後もこのような機会があれば協力したい。高校生のフレッシュさに私たちも元気をいただいた。
- ・行政保健師志望の学生さんが参加、自分の目指す職場を体験できたことが今後の参考になったようだった。
- ・保健師という仕事を初めて知った方も多かった。・保健師の対象に合わせた声かけ悩みに寄り添う姿を見て「とてもやりがいのある仕事だと思った」「楽しかった」などの感想があり、今回の体験が保健師について理解を深める機会になり、施設側としても嬉しく思った。
- ・看護の分野に興味を持った学生達だったので、積極的に質問したり、色々なことを学ぼうとする姿勢がみられた。また、「体験に来たい、時間が足りない」などの声を聞き、今後も協力したい。
- ・礼儀正しい高校生らしい初々しい姿勢で、利用者宅でもあたたかく受け入れられていました。在宅看護の魅力が伝えられていれば幸いです。訪問看護師になってくれたら嬉しいと伝えています。
- ・漠然と医療系の道を考えている高校生に具体的に看護師の仕事ややりがいを伝え、体験していただくことで看護師のなり手を増やす良い機会と考える。今後も次世代の看護師を増やすため、当院でも受入れ数を増やし協力したいと考えている。
- ・助産師になりたいなど、具体的に将来を見据えている学生に対しては、適切な施設での体験が望ましいと感じた。うだが、体験を通して地域で活動している看護職の存在を知るきっかけになったようだった。

《まとめ》

- ・今年度の「ふれあい看護体験」は昨年度より多い22施設で182人（学校数13校）が参加、受入れ施設の協力で、希望者全員が体験することができた。

病院、保健所、訪問看護ステーションで、患者（利用者）と直接触れ合うことができたことや看護職の活躍の場を見ることができたことが、参加した学生にとって良い経験になり、看護職により興味を持ってもらう機会になった。施設からの報告書や学生のアンケート内容からは学生・施設ともに事業の目的は達成できたと考える。